



www.jtu.or.jp

第29回オリンピック競技大会トライアスロン競技男子速報

山本良介は30位、田山寛豪は48位

フロデノ(ドイツ)が優勝。2位にウィットフィールド、3位にドカティ

8月19日(火)、第29回オリンピック競技大会のトライアスロン競技男子が、北京市北部の昌平区にある十三陵ダム湖のダムサイト特設コースで行われた。

天候は昨日につづいて晴れ。気温は約30度、水温26度でウエットスーツ着用不可で競技は行われた。

男子のレースは、世界各国の精鋭55名が参加。日本選手は、山本良介(トヨタ車体)、田山寛豪(流通経済大学職員・チームブレブ)がスタートラインに立った。

午前10時ちょうどのスタートは、直後から全選手がほとんど集団となって泳ぐ。

1周1.5kmのコースを最初に上がってきたのは、シェーン・リード(ニュージーランド)で18分ちょうどのタイム。2秒後にイゴール・シソエフ(ロシア)、その1秒後にフレデリック・ペローブル(フランス)。そして、18分4秒であがったのはハンター・ケンパー(アメリカ)と田山で、田山は5番目の順位。

山本は18分27秒で40位。優勝候補のハビエル・ゴメス(スペイン)は18分8秒で8位、サイモン・ウィットフィールド(カナダ)は18分18秒で22というタイムとなった。

バイクに入ると、1周目からほとんどの選手が一つになり、大集団を形成。これが幸いして、スイム40位の山本も第1集団でバイクを戦うこととなった。

山本は、2周目後半で、一時先頭を引く見せ場をつくった。

4周目の終わりから5周目にかかるところで、



世界から集まった精鋭55名がスタートした



スイムを終えてバイクへのトランジションへ急ぐ田山(左)と山本



十三陵ダム湖につくられた特設コースを走る約50名のバイク集団

JTU Official Sponsors & Official Partners



ディルク・ボッケル(ルクセンブルグ)とアクセル・ゼブロック(ベルギー)、フランシスコ・セラノ(メキシコ)が逃げを開始した。6周回が終わるころには、セラノが遅れたが、この3名に続いて、48名の大集団がランへのトランジションに帰ってきた。

ランスタートは、上記の3名に遅れて、ヤン・フロデノ(ドイツ)、クリス・ゲメル(ニュージーランド)、ダニエル・ウンガー(ドイツ)、イワン・ラーニャ(スペイン)、ブルーノ・パイス(ポルトガル)の順。ゴメスは、この時点では一歩遅れてスタートしている。

山本と田山は、40位付近でのスタートとなった。

1周目を終わって最初に帰ってきたのは、ボッケルとゼブロック。続いてアリスティア・ブラウンリー(イギリス)、ゴメス、ラーニャ、ベバン・ドカティ(ニュージーランド)、ラスムス・ヘニング(デンマーク)、スヴェン・リーデラー(スイス)、フィリップ・オスバリー(チェコ)、ウィットフィールドの順。

2周回目を終わるころには、ラーニャを先頭に、ゴメス、ブラウンリー、ドカティが先頭集団を形成。続いてフロデノとウィットフィールドが追う展開となった。

ラン最終周を終えてスタンド前に姿を現したのは、フロデノ、ウィットフィールド、ドカティ、ゴメスとやや遅れてラーニャ。一時はウィットフィールドが前に出たが、フロデノが盛り返して、1時間48分53秒で優勝。2位はウィットフィールドで1時間48分58秒、3位は1時間49分5秒のドカティだった。ゴメスは4位となった。

山本は、ランで順位を上げたが、最後は力尽きて1時間52分11秒の30位、田山はスイムの好調をバイク・ランにつなげることができずに1時間56分13秒の48位だった。

日本選手団はこのレースが終わって選手村に移った後、22日(金)に帰国の予定。

なお、このレースのリザルトの詳細は、ここをクリックしてください。

レースの様子は「web JTU Magazine」フォトギャラリーでご覧になれます。



ゴメスを先頭に、フロデノ、ウィットフィールド、ドカティがバトルを繰り広げた



ランで一時は追い上げた山本



調子が出なかった田山



喜びを表すフロデノ



表彰台のウィットフィールド、フロデノ、ドカティ

JTU Official Sponsors & Official Partners

